

— 総括表 —

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

港南中央地域ケアプラザの担当エリア(上大岡、笹下、日野第一)は鎌倉街道・環状2号線・笹下釜利谷道路の大きな3つの幹線道路に面し、地下鉄やバス等の交通網は充実していますが、その反面、主要道路の左右は急な山坂で道路幅も狭く、車が通れない場所もあることから、高齢者・障害児者・乳幼児をもつ親にとっては、外出や買い物等がしにくい状況が見られます。また、どの地区も高齢化率は区平均を下回っていますが、丁目別に見ると30%を超える地域もあります。住民相互の助け合い活動である「福祉ネットワーク」に関しては周知不足や担い手不足などの課題はありますが、どの地区も早くから活動が実施されており、住民同士の支え合い活動の土壌ができています。

当ケアプラザの担当エリアが広いと、ケアプラザまで遠い方は足を運ぶ機会が少なく、ケアプラザの役割等の周知が十分行き届いていないことや、講座に参加できない現状があります。そのため、近隣の区民利用施設等と連携した講座や、出張相談を開催することで、日頃ケアプラザを利用しない方にも周知をすることや、相談がしやすい関係づくりを行っていきます。また、身近な場所での住民同士の交流のきっかけづくりや、自立支援のための拠点となる場所(介護予防教室等)を作っていきます。

高齢者の方が増えるにつれて、認知症の方も増えることが考えられます。地域や中学校等に認知症サポーター養成講座を継続して開催することで、多くの世代の方に理解を広げることや、企業等からの依頼がある「認知症の方に対する具体的な対応方法」についての講座も開催をしています。企業からの依頼は潜在的にもまだまだ見込まれると考え、業務にて認知症の方への対応に悩まれている生活に密接した企業・商店等へ働きかけて、さらなる講座の開催へ繋げます。地域の方に限らず、企業等が、地域の一員として、認知症についてより理解が深まることにより、認知症の方と家族が、安心して生活することができるように取り組みます。

また、高齢者の方が在宅生活を続けていくにあたり、介護保険だけではなく、医療機関との連携や、地域の方のゆるやかな見守り、介護保険外のサービスの活用など、様々な方との連携がより一層必要になってくると考えています。関係する方々と情報交換や困りごとの検討をする仕組みを作ることによって、高齢者の方が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられるように取り組んでいきます。

地域福祉保健計画の推進については第3期での取り組みを踏まえて第4期の策定に向けて支援チーム会議の場を設けて、地域の方とともに計画に沿った取組をチームとして実現できるよう支援していきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	コミュニティハウスやスポーツセンター等、近隣の区民利用施設等と連携した事業の開催をすることで日頃ケアプラザを利用しない方にも周知します
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	担当エリア分けを生かし、コーディネーターと連携して地域に積極的に出向き関係構築と拠点となる場所(予防教室等)を作ります。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	生活に密接した企業・商店等へ働きかけて潜在的なニーズを引き出し、さらなる講座の開催へ繋げることで、認知症の理解を広げます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域の方々や介護、医療関係者と顔を合わせや、情報交換、困りごとについて一緒に考える機会を設けます。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域福祉保健計画の推進に関しては、計画に沿った取組を地域の方々とともにチームとして実現できるように、支援チーム会議にて、検討や情報交換を行います。

## ◆ 事業報告・事業実績評価

### □ 振り返り

今年度は新型コロナウイルスの影響があり、例年と同様の開催とはなりませんでしたが、事業内容や開催方法を変更するなど、この状況の中でもできることを検討して取り組みました。また、地域活動の休止や、会議の中止などにより、これまでのような地域の方との関わり合いが減ってしまうこともありましたが、地域活動の再開に向けて一緒に検討することや、ウォークラリー、介護予防講座、移動販売等を地域の方と協力しながら実施することができました。

より多くの方にケアプラザについて知ってもらう機会や、ケアプラザまで来ることが難しい方にも講座を受けてもらえる機会を作るために近隣施設との連携を深めました。地域子育て支援拠点やコミュニティハウスとは、コロナ禍における事業実施等について情報交換を行いました。ケアプラザから遠い地域にある施設で地域子育て拠点と連携した子育て講座を実施することや、スポーツセンターとは改築工事で閉鎖の間、ケアプラザを会場として事業を実施することで、これまでケアプラザの利用がなかった参加者にケアプラザの役割について周知できたり、講師や内容などについて情報交換することで、各施設との連携を今後も検討していきます。また、民生委員を中心とした地域の方々との連携を図り、ケアプラザが遠い地域の2箇所介護予防講座を実施することができ、これまで地域活動に参加されていない方の参加にも繋がりました。毎月1回ずつ行っており、毎月の集いの場が、顔見知りの関係づくりや自主的な会になるように支援をしていきます。今後も地域の方が集まり、介護予防に繋がる場を地域の中に作っていきたいと考えています。

企業等からの依頼がある「認知症の方に対する具体的な対応方法」についての講座は、今年度はコロナ対策もあって、生活に密接した企業・商店等へ働きかけての講座開催に繋げることができませんでしたが、相談をうける中で、地域の商店の店主をはじめとする地域のキーパーソンなどを把握できました。地域の情報を集め、今後どのような方にアプローチをして、ネットワークを築くかについて検討を始めることができました。また、港南中学校で行っていた認知症サポーター養成講座については、キャラバンメイトに認知症に関する資料を作成してもらい、教職員から資料をもとに中学生に向けた「認知症の理解」についての講座を予定しています。資料については、一部修正したものを地域で配布するようにして、簡単に読めることで、より多くの方へ「認知症についての理解」を伝える機会となることや、ケアプラザとキャラバンメイトの周知にもなるようにしました。

地域包括支援センターの各担当が感じている地域の困りごとについて個別地域ケア会議1回と、包括的地域ケア会議を2回開催しました。今年度は昨年度着任された新任民生委員や港南区に着任したばかりのケアマネジャーを対象とすることで、それぞれの役割の理解や、地域活動、サービスについて理解を深めることができました。

地域福祉保健計画の推進、次期計画策定に向けては支援チーム会議等で情報交換を行うことで、各地域に沿った取り組みに向けて協力をしながら実施することができました。

### □ 区からのコメント

職員体制も安定し、各職種の専門性を活かして地域の情報収集や情報を共有する仕組みが機能しています。また、把握した相談は区や関係機関の果たすべき役割をしっかりと理解した上で、適切に連携できています。引き続き各職種の役割を意識し連携して業務を行い、経験年数に応じたフォローアップをお願いします。コロナ感染症対策のため、例年のように認知症サポーター養成講座を開催することはできませんでしたが、地域のキャラバンメイトと協力し中学生向けの教材資料を作成するなど啓発に取り組みました。中学生に伝わりやすく、地域住民の視点から中学生にお願いしたいことを伝えられる内容になりました。引き続きキャラバンメイトが活躍できる場の支援をお願いします。

令和2年度はコロナ感染防止のため、諸室の貸出しや相談業務、各種事業の実施などに様々な制限が求められました。そうした中でも、工夫を凝らしながら、関係者との協働により地区別計画の策定を達成するなどの成果も上がっています。今後、ますますのニーズ増が見込まれるICTの利活用については区役所としても各種取組の提案や情報提供などに努めていきます。引き続き、地域の皆様の期待に応えられるよう、適切・健全な施設運営をお願いいたします。